



発行所  
長野市大字栗田2142番地  
長野県農業卸商業  
協同組合  
TEL. (026) 228-5730  
FAX. (026) 228-5818  
定価 1部50円(税込)

# 今年の病害虫発生の特徴

## 野菜・花き

農業試験場病害虫防除部 主査 若林秀忠  
技師 増澤高亨

本稿は、長野県農業試験場病害虫防除部で実施している巡回調査の概要について紹介する。

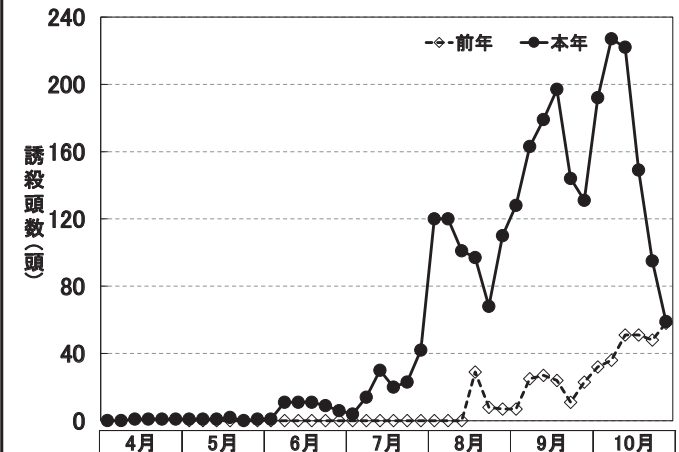
### ○全般

本年は、3月下旬から高温傾向が続き、晴れた日が多かったが、5月下旬から6月中旬にかけては、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。6月下旬からは、晴れて暑い日が続いた。8月上旬と9月中旬に、曇りや雨が多い時期があったが、その他の期間は概ね晴れて気温は高めに推移した。

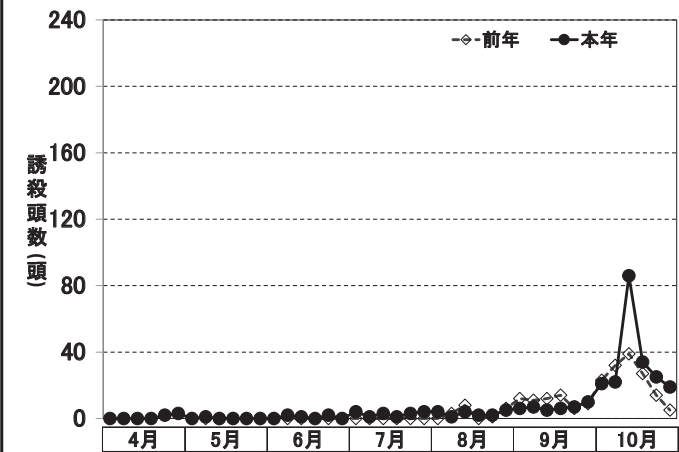
高温、乾燥気味の気象の影響を受け、本年度は害虫の活動が活発で、特にハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類等微小害虫の発生が多い傾向がみられた。また、ウツバ類、ヨトウムシ類、オオタバコガ、コナガ等チョウ目害虫の発生も全般的に多かった。

病害の発生は、全般的に少なかつたものの、雷雨等、局所的に強い雨が降った地域を中心に、細菌性病害の発生が多い傾向もみられた。

### ○果菜類



\* 農業試験場病害虫防除部中南信班調査  
南箕輪村大泉



\* 農業試験場病害虫防除部調査  
長野市松代町

図1 フェロモントラップによるトマトキバガ誘殺消長 (令和7年)

で葉への食入被害が確認された。そのため、最初に誘殺が確認された4月下旬に地区報(病害虫情報)・南信地域で誘殺頭数が急増した8月中旬に地区報(地区注意報)を発生して生産者に注意を促した。

### ○アブラナ科野菜

ハダニ類は、施設栽培のきゅうりの一部は、5月下旬から、露地栽培のきゅうりでは6月及び9月以降、露地栽培のトマトの一部は、8月上旬から発生がみられ、平年と比べ多かった。

### 【病害】

キャベツでは、6月下旬以降に株腐病、7月上旬以降に一部は腐病が散見された。また、一部のほ場では6月下旬にべと病の発生がみられた。黒斑細菌病、軟腐病などの細菌性病は、7月上旬以降、一部の地域で発生がみられた。ブロッコリーでは、一部のほ場でべと病、黒腐病の発生がみられた。細菌性病では、8月下旬〜9月上旬に一部のほ場で黒斑細菌病の発生がみられた。

はくさいでは、6月上旬以降にべと病が散見された。また、一部のほ場で白さび病、ピシウム腐敗病、軟腐病の発生がみられた。

### 【害虫】

5月〜7月にコナガの発生が多かった地域があり、一部のキャベツほ場で被害が発生した。また、タマナギンウワバの発生も多く、各地のキャベツほ場で被害が確認された。

「令和8年長野県農作物病害虫・雑草防除基準」  
発行予定…令和8年2月上旬  
価格…900円(消費税込み・送料別途)

お問い合わせ・ご注文は、(一社)長野県植物防疫協会  
電話026(235)3510 までお願いします。

お問い合せ…ご注文は、(一社)長野県植物防疫協会  
電話026(235)3510 までお願いします。

### ○ねぎ

平年よりやや早い6月上旬から黒斑病の発生がみられ、9月上旬には、ほぼ全株に発病がみられるほ場もあった。また、一部のほ場で6月下旬からさび病の発生がみられた。

### ○レタス

5月上旬以降、アザミウマ類、ネギハモグリバエ幼虫の寄生が増加し、栽培期間を通してこれらによる被害がみられた。また、9月下旬以降には、一部のほ場で、ヨトウムシ類による食害がみられた。

### ○アスパラガス

茎枯病は、露地栽培、雨よけ栽培ともに6月下旬から発生がみられ、発病株率、発病度は、全般的に平年と比べやや高かった。斑点病は、一部の露地ほ場で発生がみられたが、平年と比べやや少なかつた。

### ○たまねぎ

5月下旬からアザミウマ類、7月上旬からハダニ類の寄生がみられ、一部のほ場では多発した。

### 【害虫】

5月上旬からアザミウマ類、7月上旬からハダニ類の寄生がみられ、一部のほ場では多発した。

### 【病害】

5月下旬から、一部のほ場で黒斑病、べと病の発生がみられ、黒斑病は平年と比べ発生量が多かった。

5月上旬以降、アザミウマ類、ネギハモグリバエ幼虫の寄生が増加し、栽培期間を通してこれらによる被害がみられた。また、9月下旬以降には、一部のほ場で、ヨトウムシ類による食害がみられた。

### トピックス

全国1等米比率77%

農林水産省の10月31日の発表によると、2025年産米(水稲つち玄米)1等米比率の全国平均が、9月30日現在で、77.0%でした。同時期の24年産米は77.5%、23年産米は59.6%、22年産米は75.8%でした。

都道府県別で1等米比率が最も高かったのは岩手県の97.6%で、2番は長野県の95.4%、3番は山形県の95.0%でした。

(信州の農業事務局)

### BASF 果樹、野菜の味方!

BASFの4製品が守ります

- バスター** 高濃度少量散布ができる! 果樹園の下草防除に
- セフィーナDC** アブラムシ専用剤新登場! ダンジング効果で葉菜類を守る!
- ベランティー** 黒星病や褐斑病防除に新規の有効成分配合
- シグナムWDG** 2つの有効成分で野菜の幅広い病害をブロック!

BASFジャパン株式会社  
東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階  
0120-014-660 https://crop-protection.basf.co.jp/

### 葉面散布用カルシウム肥料

# ストピットII

STOP IT THE SECOND

果実のカルシウム欠乏症の予防、品質向上に

## クレフノン

CLEF-NON

リンゴ、カキ、ナシの果面保護に

資料請求先 白石カルシウム株式会社  
食品アグリ資材G/〒104-0031 東京都中央区京橋1-11-1 TEL. 03-3538-2354

### ハダニの卵~若虫に効果を発揮!

# エコマイト

ダニ防除剤 顆粒水和剤

兼商 ヨーバル

害虫防除剤 フロアブル

病害とナメクジ類の同時防除に!

兼商 クプロシールド

病害防除剤

アグロ カネショウ株式会社 関東支店 中部営業所  
TEL. 026-224-1265

# 新しく普及に移す見込みの農業技術

農業技術課 副主任専門技術員 横澤志織

令和7年度第1回普及技術検討会において普及に移される見込みの課題のうち、植物防疫(病害虫防除)に関する技術について概略を紹介する。発刊の都合上、普及技術検討会で検討された情報に沿って記載している。また、表現や文言などは、今後変更される場合があるのでご留意いただきたい。詳細については、長野県農業関係試験場ホームページ(<https://www.agries-nagano.jp/>)に掲載されるので確認していただきたい。

**【注 意】**  
本稿に記載されている情報は、普及技術検討会への提案時(2025年10月8日現在)の農薬登録内容に沿っている。本稿掲載後の農薬登録変更等もあり得るので、農薬ラベル記載の適用登録をよく確認し、使用者の責任において適正に使用する。なお、紙面の都合により、各技術の利用上の留意点は記載を省略した。使用にあたっては、上記ホームページにおいて注意事項について必ず確認する。なお、農薬の使用にあたっては、蚕、ミツバチ、天敵等の有用生物や水産動植物への影響や人畜毒性、農作物の薬害等の注意事項も確認し、農薬の危被害防止に努める。また、病害虫の薬剤抵抗性発達を防ぐため、FRACコードやIRACコードを参考に作用機構分類の異なる薬剤をローテーションで使用する。

【普及技術】	
タイトル	技術内容(要約)
DMI剤に偏重しない日本なし「幸水」の新たな薬剤防除体系	日本なし「幸水」の開花直前にミギワ20フロアブル4,000倍液またはユニックス顆粒水和剤2,000倍液、落花直後にカナメフロアブル8,000倍液を組み合わせると、生育期間を通してナシ黒星病の被害を低減でき、ナシ赤星病に対する効果も高い。

【技術情報】	
タイトル	技術内容(要約)
スコア顆粒水和剤へのチウラム水和剤の加用によるナシ黒星病に対する防除効果	ナシ黒星病防除に、チオノックフロアブルまたはトレノックフロアブルの500倍液を加用したスコア顆粒水和剤4,000倍液を、落花直後に散布する。これにより、スコア顆粒水和剤の単用処理に比べてナシ黒星病に対する防除効果が高くなり、DMI剤低感受性ナシ黒星病菌の発生が懸念される圃場や地域においても高い防除効果が期待できる。
日本なし「幸水」の果実肥大期における各種殺菌剤のナシ黒星病に対する防除効果	日本なし「幸水」の果実肥大期にあたる6月中旬から7月上中旬に、ストロビードライフロアブル3,000倍液、スクレアフロアブル3,000倍液(いずれもQoI剤)、カナメフロアブル4,000倍液(SDHI剤)、ミギワ20フロアブル4,000倍液(DHODHI剤)のいずれかを散布すると、ナシ黒星病の果実被害を少なく抑えられる。

【農薬情報(殺菌剤)】			
対象作物	対象病害虫・雑草等	農薬名	技術内容(要約)
水稲	もみ枯細菌病(穂枯症)	ジクロベンチアゾクス2%含有苗箱施薬剤(ブーン粒剤など)	イネもみ枯細菌病(穂枯症)防除にジクロベンチアゾクス2%含有苗箱施薬剤(ブーン粒剤など)を移植当日に育苗箱1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。
水稲	紋枯病	インピルフルキサム2%含有苗箱施薬剤(アレスモンガレス箱粒剤など)	イネ紋枯病防除にインピルフルキサム2%含有苗箱施薬剤(アレスモンガレス箱粒剤など)を移植当日に育苗箱1箱当たり50gを育苗箱の上から均一に散布する。
もも、ネクタリン	せん孔細菌病	ICジンク水和剤	もも、ネクタリンのせん孔細菌病防除にICジンク水和剤の1,000倍液を散布する。本剤の散布により葉に薬害を生じる場合がある。
ブロッコリー	軟腐病	マイコシールド	ブロッコリー軟腐病防除にマイコシールドの2,000倍液を散布する。

【農薬情報(殺虫剤)】			
対象作物	対象病害虫・雑草等	農薬名	技術内容(要約)
ぶどう	アザミウマ類	オリオン水和剤40	ぶどうのアザミウマ類防除にオリオン水和剤40の1,000倍液を散布する。蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。
ぶどう	ブドウサビダニ	コテツフロアブル、ファインセーブフロアブル	ぶどうのブドウサビダニ防除にコテツフロアブルまたはファインセーブフロアブルの2,000倍液を散布する。
もも	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	もものアザミウマ類防除にファインセーブフロアブルの2,000倍液を散布する。
すもも	シンクイムシ類	エクシレルSE	すもものシンクイムシ類防除にエクシレルSEの5,000倍液を散布する。蚕に対して長期間毒性があるので、桑園付近では使用しない。

## 話題の巻

### UV-B照射と天敵等の活用によるいちごの「グリーンな栽培体系」の実証

農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、環境負荷の低減と省力化を両立する「グリーンな栽培体系」の推進を掲げています。長野県においても、第4期食と農業農村振興計画に基づき、環境にやさしい農業への転換が進められており、夏秋いちごではUV-B照射と油脂系気門封鎖型殺虫殺菌剤の体系処理が、「うどんこ病」やハダニ類の抑制に有効であることが令和2年度の普及技術になっていました。

こうした背景のもと、南信州地域における促成いちご栽培において、従来の化学合成農薬主体の防除体系からの転換を目指し、令和6年9月から令和7年5月にかけて、農事組合法人信州高森いちご生産組合の協力のもと、実証試験を実施しました。

#### ■試験の内容

試験では、「うどんこ病およびハダニ類の発生を抑制するため、UV-B照射、天敵(ミヤカコブリダニ・チリカブリダニ)、油脂系気門封鎖型殺虫殺菌剤の3つの技術を組み合わせた防除体系を構築し、慣行防除との比較を行いました。UV-Bは一般的にDNAの損傷と活性酸素の生成を通じて生物にダメージを与えておりDNA損傷により遺伝子が正常に機能しなくなり、試験区では、高設ベンチにタイベックシートを設置し、UV-B電球形蛍光灯を9月10日より毎晩3時間照射(22時〜25時)しました。ハダニ類の発生状況を確認しながら天敵製剤として11月8日にスパイカール®(ミヤコブリダニ)を、また12月18日に「スパイデ

ックス®(チリカブリダニ)を導入しました。なお定植直後から試験区で炭疽病が発生したため炭疽病の発病が治まった11月から試験開始としました。約10日に1回、各区60株、1株2小葉の計120小葉を調査しました。

#### ■結果と考察

調査結果から、UV-B照射や天敵の導入等により、ハダニ類の発生が抑制され、防除回数削減と作業の省力化に一定の効果認められました。特に試験区では、慣行防除に比べて防除回数を2回削減しながらも、病害虫の発生を抑えた栽培が可能であることが実証されました。

なお、「うどんこ病」については、試験区・対照区ともに発生が確認されませんでした。これは本年度、地域全体として、「うどんこ病」の発生が少なかったことが影響していると考えられますが、防除回数を削減した試験区においても発病が見られなかったことは、導入技術の予防的効果を示唆するものと捉えています。

#### ■おわりに

南信州地域では、近年の温暖化の影響により、ハダニ類をはじめとする微小害虫の発生が増加傾向にあることから、「うどんこ病」の総合的な防除技術の普及は、持続可能ないちご栽培の実現に向けてますます重要となります。今後は、本試験の成果をもとにマニュアルを作成し、現地検討会の開催により、地域内での技術普及と実践的な活用をさらに推進していく予定です。今回の実証試験で協力いただいた農事組合法人信州高森いちご生産組合では、対象区と比較して顕著にハダニ類の発生が抑えられたことから、UV-B照射の効果を実感することができ、今後もUV-Bを活用していく方針です。

(南信州農業農村支援センター) 技術 細久保安彦



今年の病害虫発生の特徴

水稲・普通作物

農業試験場病害虫防除部 担当係長 藤沢喜一

本稿は、長野県農業試験場病害虫防除部で実施している病害虫発生予察の概要について紹介する。

【水稲】

【水稲】
葉いもち病
葉いもちは、7月中旬以降、一部のほ場で発病株率が急増しており、注意が必要な状況となっていた。

また、葉いもち感染予測モデルBLASTAM(アメダスデータをもとに、温度や葉の濡れ時間などの気象条件から感染の好適性を判断し、葉いもちの発生を予測するためのシステム)による予測手法がある。同モデルによれば、6月は感染好適条件の出現数が平年より多く、実際に現地では、6月下旬にすでに発病が確認されていた。これを受けて、7月中旬の発病株率が高いこと、今後も降雨等により感染好適条件が揃った場合には、上位葉への進展、さらには穂への感染による穂首等いもちの発生につながる危険性が高まる状況であった。特に、中山間地域においては、地形的に湿度が保たれやすく、い

Table with 3 columns: 地域, 6/1~6/30 平年比(%), 7/1~7/15 平年比(%). Rows include 東信(5), 南信(8), 中信(9), 北信(5), 全県(27).

注) 地域( )の数字はAMeDAS観測地点数。平年は過去10年間(平成27年~令和6年)の平均値。

【オネコ病】
本病は、ヒメトビウソクが発病株を吸汁することによって病原ウイルスを伝播する。保毒虫は次世代にもウイルスを伝播するため、令和元年以来、発生が継続している。8月下旬の巡回調査では、南信地域及び北信地域では発生は確認されなかった。一方、東信地域及び北信地域では発生地点率が平年

と比べ高く、発病株率については、東信地域では平年と比べ低く、北信地域では平年と比べ高かった。
○斑点米カメムシ類
6月下旬に実施した畦畔でのすくい取り調査(ネット20回振)では、斑点米の原因となるカメムシ類(以下「斑点米カメムシ類」)の捕獲地点率が全域で83.9%(平年54.9%)と高く、1地点あたりの平均捕獲頭数も12.3頭(平年4.4頭)と多かった。さらに、7月上旬に実施した本田でのすくい取り調査(ネット20回振)では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率は全域で69.4%(平年38.2%)と高く、1地点あたりの平均捕獲頭数も6.1頭(平年1.1頭)と多かった。加えて、県内6カ所に設置した予察灯による誘殺頭数調査では、6月第2半旬以降アカヒゲホソドリカスミカメとアカスジカスミカメが平年と比べ多かった。なお、7月10日に気象庁が発表した向こう1か月の予報によると、晴れの日が平年並に多く、気温は平年と比べ高くなる見込みであった。このため、斑点米カメムシ類の活動が今後さらに活発化すると推測された。

このような状況を踏まえ、7月14日に「病害虫発生予察注意報第2号(斑点米カメムシ類)」を発表し、注意喚起を行った。その後も、8月上旬及び下旬の巡回調査、9月上旬の巡回調査では、平均捕獲頭数は平年と比べ全般的に多かった。
○イネネットムシ(イチモンジセリ)
黄色粘着トラップによる成虫の誘殺調査では、平年と比べやや早く、7月第1半旬に1頭が初誘殺された。その後、9月第6半旬までの調査では、誘殺数はほぼ平年並となった。一方で、9月上中旬の巡回調査では、イチ

モンジセリ(イネネットムシ)による被害(つ)の平均確認数は、南信地域では平年と比べ多く、北信地域では平年並であった。また、東信地域及び北信地域では「つ」とはみられなかった。
○ニカメイチュウ(ニカメイガ)
近年、東信の一部地域で発生が多くみられるが、他地域ではほとんど確認されていない。なお、フェロモントラップ及び予察灯による誘殺調査では、越冬世代成虫第1世代の発生時期は平年並で、発生数もほぼ平年並であった。また、9月上中旬の巡回調査では、白穂発生地点率は東信地域で平年並であり、一方で、その他の地域では確認されなかった。
【麦類】
○麦類赤かび病
クロップナビを用いた、コムギ赤かび病感染予測システムにより、コムギ赤かび病菌が感染する好適条件日が出現した。これを受けて、北信地域の一部栽培場では、5月28日に初発が確認された。一方で、気象庁が5月22日に発表した1か月予報によれば、気温は平年並または高め、降水量は平年並または多めとなる見込みであったことから、今後コムギ赤かび病の感染に適切な気象条件が続くと予想された。加えて、県内の一部栽培場では凍害が発生しており、被害を受けた穂はコムギ赤かび病に感染しやすい。さらに、早期に倒伏したほ場も見られ、感染リスクが高い状況であった。
そのため、5月29日に「病害虫発生予察注意報第1号(コムギ赤かび病)」を発表し、注意喚起を行った。その後、6月上旬に実施した巡回調査では、適正な防除が行われたことなどから、赤かび病の発生はごくわずかでとどまった。

【大豆】
発生地点率は、全般的に平年と比べ高かった。それに加えて、寄生虫数も同様に、全般的に平年と比べ多かった。
なお、優占種はイチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ、アオサカカメムシ、ブチヒゲカメムシであった。特に、今年度は大型種であるホソヘリカメムシの発生が顕著であった。
○ハスモンヨトウ
ハスモンヨトウの発生は、調査を開始した平成29年度から令和5年度までは確認されなかった。しかし、令和6年度にはハスモンヨトウの多発が確認された。本年度においても、フェロモントラップによる誘殺頭数が平年を上回っており、今後の多発が懸念される状況であった。
そのため、8月28日に「病害虫発生予察注意報第4号(ハスモンヨトウ)」を発表し、注意喚起を行った。その後、9月中旬に実施した巡回調査では、東信地域及び北信地域において、発生地点率が平年と比べ高かった。また、食害度及び白変葉の発生地点率も平年と比べ高かった。

【質問】農薬の安全性はどのように確保されているのでしょうか。
【回答】
農薬は、農作物に散布され、意図的に環境中に放出されるものであることから、人の健康や環境に対する安全を確保することが必要です。
・このため、毒性、作物への残留、環境への影響等に関する様々な試験成績に基づき、安全性の評価を行い、問題がないと判断した農薬のみを、農林水産省が登録しています。
・また、農薬は登録されたものしか使ってはいけないこと(もちろん、登録の際に使用できる作物と使用方法、希釈倍数、使用量、使用時期、回数なども合わせて定めており、農薬を使用するときにこれらを遵守することで農薬の安全性が確保されています。
(農林水産省Webサイトより抜粋 信州の農業事務局)

Advertisement for KANAME fungicide. Features a character illustration and text: '大切な野菜を守る' (Protect important vegetables), '殺菌剤分類 7', '有効成分: インピルフルキサム...37.0%', '住友化学' (Sumitomo Chemical).

若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

Advertisement for Garden Bolder fungicide. Text: '無機銅と硫黄の殺菌剤 ポジティブリストの対象外 ぶどうのべと病、黒とう病、晩腐病対策に 園芸ボルドー', '園芸ボルドー', 'ブレイカスルー', 'グムラス', 'キルパー', 'サンケイ化学株式会社'.

【質問】農薬の安全性はどのように確保されているのでしょうか。
【回答】
農薬は、農作物に散布され、意図的に環境中に放出されるものであることから、人の健康や環境に対する安全を確保することが必要です。
・このため、毒性、作物への残留、環境への影響等に関する様々な試験成績に基づき、安全性の評価を行い、問題がないと判断した農薬のみを、農林水産省が登録しています。
・また、農薬は登録されたものしか使ってはいけないこと(もちろん、登録の際に使用できる作物と使用方法、希釈倍数、使用量、使用時期、回数なども合わせて定めており、農薬を使用するときにこれらを遵守することで農薬の安全性が確保されています。
(農林水産省Webサイトより抜粋 信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

トピックス
若手農林水産研究者表彰
県野菜花き試験場佐久支場の石山佳幸研究員は、令和7年度若手農林水産研究者表彰を受賞しました。この表彰は、農林水産省農林水産技術会議が主催し、農業研究普及指導等に顕著な功績があった40歳未満の研究者が受賞対象で、平成17年度に創設以来、これまで総計88人(近年は毎年5人)が受賞し、長野県関係者の受賞は初めてです。
受賞業績は、「レタスに発生する土壌病害診断法の開発と防除に関する研究」です。レタス主産地で発生した障害の原因が、わが国初確認の土壌病害であることを究明するとともに、防除対策を迅速に確立し、普及させ、現地課題解決型の研究業績として高く評価されました。
(信州の農業事務局)

Advertisement for MUSHUPOLDO DF fungicide. Text: 'ムッシュポルドー DF', '銅水和剤', '手軽に運べて らくらく防除!', 'ぶどう, もも, ネクタリン, おうとう, 小粒核果類 (あんず, ume, ずもも)', '日本曹達株式会社'.